


受賞者氏名	萬代 悠	
所属	経済学部経済学科	
受賞年月日	2024年11月12日	
国内・国外	国内	
授与機関等名称	サントリー文化財団	
受賞名	第46回サントリー学芸賞	
受賞(研究)内容詳細	<p>萬代悠『三井大坂両替店 銀行業の先駆け、その技術と挑戦』中央公論新社、2024年。</p> <p>江戸時代には、金融業者が顧客の金融取引状況を確認できる信用情報機関はおろか、収入や職歴を確認する手段もなかった。法制度においても、「法の下での平等」はなく、訴訟当事者の身分や契約内容によって、一方の当事者が過度に得をする「差別」があった。ましてや、江戸時代には詐欺や窃盗を働き、実際に処罰を受ける者たちも少なからず存在した。このような状況下で、友人や親類ではない「見ず知らず」の相手への融資を拡大し、江戸時代最大級の金融業者として明治を迎えた店舗があった。現・三井グループの元祖である三井高利が元禄4年(1691)に開設した三井大坂両替店である。この三井大坂両替店の躍進を支えた要因を、綿密な信用調査と江戸時代独自の法制度から読み解いたのが本書である。三井大坂両替店は、幕府権力に接近して厚く債権保護を得られるようにし、一方で、回収可能性を極力まで高めるために、顧客の家計状態や人柄を隣人や親類、取引先にまで聞き回った。本書は、法制度を利用した工夫と信用調査による顧客の選別、常連客の確保こそが、三井大坂両替店の成長を支えたことを明らかにしたものである。</p>	